



関根日吉先生ご逝去

予てより病氣療養されていた剣道部名誉師範 関根日吉先生が、
昨年9月22日午後11時30分逝去されました。享年91歳でした

関根先生は、武蔵大学剣道部が発足した四年後の昭和38年に師範に就任されました。平成3年波多野登志夫先生にバトンタッチされる迄の間約30年、多くの剣道部員を指導され、昭和41年の秋の東都大学剣道大会で優勝、同年秋の四大学剣道大会でも、初優勝を果たして以来、数々の功績を残されました。警視庁を退職された後は、ご自宅に錬心館を創設し、地域の青少年や剣道愛好家の指導にも尽力されました。西東京剣道連盟会長、東京都剣道連盟副会長を歴任され、剣道の普及発展に大きく貢献されました。

平成4年、波多野先生にその職を譲られてからも数年前迄名誉師範として道場に立ち、部員や会員を指導されてきました。

法名「錬心院剣豪日翁居士」の師は、東京都世田谷区野毛2-7-11善養密寺の墓地で、この世での仕事を終えて、安らかに眠って居られます。

剣道の技術や試合の心構えは元より、人生の指針や教訓を戴いた剣友会員も大勢居ります。

剣友の皆様から、師のご逝去を悼む手記が、寄せられました。

「関根先生を悼む」 昭37年卒 長谷川勲
先生が景山二郎先輩の推薦で武蔵に来られたのが昭和38年、以来30年を師範として、その後は名誉師範として40有余年のご指導をいただきました。当時の先生は警視庁剣道指導室の教師として現役のバリバリ。普通なら部発足間も無い、武蔵などへ招聘できる方ではありませんでした。



当時部員は40名足らず、OBは、10名に満たず伊能先生を部長に戴いているものの全くの創成期、それだけに稽古以外の面でも種々のご配慮を戴きました。

先生のモットーは、「礼節と和」面を付けている時は厳しくとも、外せば上下を問わず和気藹々と付き合おうと云うことでした。剣友会の機関紙に先生直筆の「○」を題字に使わして戴いているのも、「和」やかに、交互の「輪」を広めようとの想いが込められています。

とは謂え、当初の目標を四大学の優勝に置いて、就任から3年の41年にそれを達成したのですから、その稽古振りは猛烈そのもの、忽ち「鬼の関根」のニックネームを奉ったほどです。

剣道部及び剣友会が発展して来られたのも、師範・部長の名コンビに長い間ご指導いただいたお陰と感謝しております。

名誉師範になられてからは、自称「仏の関根」、部員にとっても剣友会員にとっても、全く得難い「師」でありました。

先生は、46年に八段を54年に範士になられ技術

畑では初の都剣連副会長、西東京の会長を勤められ、警視庁を退官されて開いた道場が、武蔵大学の道場と名も同じ「国立錬心館」。心を錬り人間形成の為に剣道をやるのだとの想いが込められているようです。

その道の遙か後ろから、ヨチヨチ歩いていた者にとっては、先達に忽然と消えられてしまって途方に暮れるばかり。もっと種々教を戴いていたらとの悔しさが募るばかりです。

何れ彼岸でお会いした時に、先生のご叱正を受けぬよう、同行の人達に援けられながら、この道を精一杯歩き続ける所存です。ご冥福をお祈り申し上げます。

「掌（たなごころ）のこと」

昭39年卒 岡田行一

関根先生が武蔵に来られたのは、先生が未だ40台半ばで、まさに脂の乗り切っていた時でしたから、その強さたるや表現のしようがありません。長らく警視庁チームの大將を張られていました。学連の先生方を相手の稽古では、「十本勝負で一本とったら、着けている防具をやる」と豪語されていました。それくらい強かったのです。

剣道では齒が立ちませんから、お酒でご指導を戴きました。日本酒がお好きでした。呑むほどに酔うほどに、剣談・人生談のお説教が始まりました。正座していますと、「安座しなさい」と言ってくださいます。先生のご自宅にも何度となくお邪魔をしては奥様の日本舞踊も見せて戴きました。そして、鹿児島の話、軍隊の話、病気になられたこと等、ご苦労話も聞かされました。写真は私の卒業コンパの後、先生のお宅での二次会です。

「三顧の礼」の話もされました。旧姓武蔵高校のOBの皆さんから「武蔵の師範を」と云うお話があった時、一度二度とお断りをされましたが、三度目のお話があったとき「これ以上断ったら失礼になる」と、お引き受けされたとか。「人間、進む・立候補する、引き受ける時は多くの人からの推薦が在れば

よし、辞退するときは、自分の意志で決めるもの」と教えて戴きました。



ご病気とのことでお見舞いに伺ったとき、帰りに国分寺の駅まで車で送っていただきましたが、別れ際に先生が握手をしてくれました。その掌の柔らかかったこと。稽古が終わって風呂場で背中を流させて戴いたとき、骨太の体に惚れ惚れとしましたが、先生の掌（手の心）に触れたのは初めてでした。これが剣豪の掌なのかと、そして打突の時は、この掌がキュと締まっていたのかと、四十年たって先生の全てを会得させていただいた瞬間で、中央線の中でありましたが、涙が止まりませんでした。

今頃は、天国で右二刀流の故 伊能先生と「少しは呑めるようになりましたか？」とかなんとか言いながら談笑されておられる事でしょう。

右手に伊能先生、左手に関根先生、両手合わせて南無阿弥陀仏。

「関根先生の思い出」

昭42年卒 緑川毅重

先生が道場にお見えになる日は、いつも緊張した空気があった。稽古は必ず先生とやらなければならなかった。試合が近づくと2度やらなければならなかった。

一度はほとんど掛かり稽古で最後の方は面が決まるまで終わりにならなかった。2度目は途中から三本勝負と言われ、試合になったりした。先生に面など決められると、先生は得意そうに、どうだと言わんばかりに右手を胴の前でぐるぐる廻した。

三本勝負と言っても中々取らせてくれない一本目は少し甘くしても取らせてくれる。二本目がとれない。いろいろ仕掛けて打つが駄目で、その内くたくたになり面しか打てなくなる。遠間からの一本打ちになる。足が動かなくなる。その頃になって、やっと一本打たせてくれた。

先生の技の中に、片手突きが在る。構えていると、急に竹刀が喉に突き刺さる。両手突きではなく、片手突きである。喉に真っすぐ入ってくる。試しにやってみたが、狙いが定まらない。竹刀の先がぶれて、喉から流れてしまうのである。

先生は若い頃、血の小便が出るほど練習したと言われた。そこまで練習したことがない。先生は本当に剣道が好きなのだと思った。

ここ暫く学校の道場へほとんど行かなくなって、お会いする機会が無いまま先生とお別れすることになってしまった。痛恨の極みである。

京橋のもとに警察博物館が在る。以前はPRセンターと言ったと思うが階上に道場があって、先生がそこにおられたことがあった。一度伺って稽古をさせて頂いた。その建物の前を通るたびに、元気であられた頃の先生を思い出す。

心よりご冥福をお祈りいたします。

「関根先生の思い出」 昭43年卒 坂井達郎
去る9月28日の残暑厳しき日、関根師範の告别式が執り行われましたが、一つの時代が終わったと云う感を強く持ちました。

思い起こせば先生とお会いしたのが、昭和三十九年の4月末か5月始めの頃。池袋の某所で行われた新生歓迎コンパで、当時40代の先生が優しい笑顔で我々新生生にお酌をして頂いた事が昨日のように、思いだされます。その後、この方が警視庁で剣道指導をされている専門家で我々の師範だと知りました。

稽古を続け、二段三段と進んで行くと、下腹を抉るような先生の剣先の強さが感じられま

した。又、我々の1年先輩は、部員数、経験者とも多く相当の期待をされていた様で、稽古も厳しくコンパでも、先生が入って来られると自然と姿勢を正し、正座したものでした。その甲斐があって峰岸キャプテンのとき、四大学、東都大学リーグ戦の全てに優勝しました。我々天沼キャプテンの代も東都春のリーグ戦を除き優勝しました。先生は厳しい稽古の反面、我々をご自宅に招き奥様共々沢山の料理とお酒で歓待して戴きました。

先生が警視庁を定年退職され、ご自宅に「国立錬心館」道場を開設されましたが昇段合格率が高く、私が直接拝見させて頂きました中では、遠くは青森県から日大剣道部OBという方が、先生の指導を受けていました。

また、剣道を通じて「和」を大切にされ、稽古以外でも門下生や知人の面倒を見ておられ、相談を受けると夜でも遠方でも時と処を選ばず車でお出掛けになり親身になってその解決に努力されておりました。

先生は、お亡くなりになる前おひとり暮らししておられましたが、門下生に支えられ穏やかな日々を送っておられたと聞いております。

先生の存在は私の人生で大きなものがありますが、今後も変わることが無いと思います。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「慧眼の士」

昭50年卒 田中礼子

真新しい道場の壁には、歴代の剣道部に関わった人々の名札がずらりと並んで納められている。今ではその名も読めない位古びた物も多い。私たち同期女子三名の名もそこにある。三十余年前、全く初心者で入部した私たちだが四年間で三段まで取得出来たのは、師範の厳しいご指導のお陰と感謝している。

とにかく師範に稽古をつけて頂くには、まず相当の覚悟を要した。順に並んで自分の番を待つ間に逃げ出したくなることもしばしばあった。いざ立ち合いになると、ゆらりゆらりと剣と体を前後左右にかわされこちらの竹刀は、全く当たることがない。これでもかこれでもかと壁際に身動き出来なくなるまで追い詰められ、それでも無力な自分をどうにか奮い立たせて向かっていくしかないことが、何度あったことだろう。

なにより怖いのは、その鋭い眼力が対峙する面を通

うり抜け、その先を見透かしているような気がした事だ。中途半端な状態で竹刀は握れないそれは剣とともに魂同士のぶつかり合いでもあった。常に人間としての本質、生き方をその眼に問われている心持ちであった。

しかし不思議なことに、その怖さの中にも「ここぞ」という間を与える瞬間があった。そこをこちらがすかさず捉えれば、すっと一本を取れるように師範は心得ているのだ。

チャンスに応えられたその時、師範は形相を崩して笑顔になり、やさしきで相手を包み込んでしまうのであった。そのような細かい気配りに惹きつけられて、四年間毎日のように道場へ通い、竹刀を振れたとも云える。

師範の慧眼と温かいお人柄が、今日もなお道場に生き続けているのではないだろうか。

関根先生、ありがとうございました。

「関根先生の言葉」 昭61年卒 菅田雅人

「OBの皆さん今日は忙しい中、本当に有り難う。皆さん、今日この会に出席するためには、仕事や家庭、また経済的な事も含めていろいろ大変だったと思います。本当に今日はありがとう。学生諸君はまだ解らんと思うが、社会人になるといろいろ大変なものなんじゃ。現役の学生は、そういうことも理解して

今日来てくれた先輩達に、感謝しなければいけない」しかし、今日来られたOBの皆さん。皆さんは今恵まれた環境にいると思う。本当は今日、この会に参加したかったが、いろいろな事情で来ることができなかったOBも沢山いるはずじゃ。皆さんが今日、後輩のために来てくださった事は、大変にありがたい。じゃが、今日は是非来たかったが、事情があって来られなかった人たちの事を思って、その人達に感謝の気持ちを持ってみんなで楽しいお酒を飲もう」

師範のこの言葉で今日の納会は始まった。目を閉じると、神棚の下あたりに関根先生の姿が見える。電灯に照らされる先生の顔は、とてもにこやかだ。誰かと話をしながら、笑っている。たばこを美味しそうに吸っている。輪の中には、一升瓶、ビール、おつまみが見えてくる。

OBも、学生も、みんな笑顔で一杯だ。みんな笑っている。

なんてすてきな光景なんだろう。

みんな関根先生の事が大好きなんだ。そして関根先生も私たちの事が大好きなんだと云うことを、みんなしっかり知っているんだ。

僕は今日のこの光景を絶対に忘れない。

9月27日と28日に執り行われた通夜と告別式には、延90名もの会員が参列して、先生のご逝去を悼んだ事を報告します。(松井記)

学連剣友剣道大会鳳凰杯

鳳凰杯 第一回戦

三回戦進出

昨年12月16日東京武道館で開催された東京学連剣友剣道大会で、当剣友会は、一回戦で明治大学Aを二回戦では東京海洋大学を敗り、三回戦進出を果たした。三回戦では惜しくも、国学院大学に敗れ、ベスト8入りは阻まれた。55歳以上のこのチームには本年より野村兄(昭50卒)が加わり、日頃の稽古の成果を遺憾なく発揮した。

一回戦中堅の天沼先輩は、千葉にコを先取りし時間間際に面を返されるも引き分けとした。

副将坂井先輩も引き分け、結果は大將戦に持ち超された。手塚先輩は、初めから渋川を積極的に責め二本連取し、代表戦に持込んだ。代表戦は、三組の引分の中から選ばれ、坂井先輩の一本勝となつた。今年の

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大將	代表
武蔵大学	田中	野村	天沼 沼	坂井	手塚 コ	坂井 メ
明治大学	コ メ	×	×	×		
明治大学A	宮沢	矢光	千葉	近松	渋川	近松

鳳凰杯 第二回戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
武蔵大学	田中	野村	天沼	坂井	手塚
東京海洋大	一本勝	一本勝	一本勝	×	コ
	為石	大島	及川	松本	林

鳳凰杯 第三回戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
武蔵大学	田中	野村	天沼	坂井	手塚
国学院大学	コ	×	×	メ	×
	河野	村木	小池	前芝	酒井

学連剣友剣道大会は、十二月十四日開催の予定です。大勢の応援をお待ちしています。又参加希望の方は、佐藤則夫学連幹事迄、ご一報ください。自宅045-742-0299 携帯090-3248-5510

我が剣道人生 2

武蔵大学剣道部師範 酒井勝

念願叶って武道専科となる

最後のチャンスでやっと武道専科に合格し当時文京区富坂上にあった警視庁武道館に一年間合宿生活となりました。昭和51年4月4日「警務部教養課第12期武道専科生」となり、同期は、岡野、石井(一機)今濱(二機)中村(六機)西川(七機)早坂(八機)青木(九機)酒井(特車)の八名です。担当師範今村稔先生、教師田原弘徳先生、お二人の先生は私達八名にとって生涯恩師であります。好き好んで選んだ道でしたが想像を絶する稽古に、一年間体が持つのか不安でしたが、同期生の絆、助合いで何とか一年間耐えることができ、有り難い同期です。当時の武道専科生の稽古内容は、朝稽古をやり午前中座学の授業が一時限あり、今思出すと勿体ないような贅沢な先生方でした。名誉師範小川忠太郎先生の「剣禅一如」主席師範森島健男先生の剣道論、副主席師範長島末吉先生の猫の妙術等でした。午前中、実技の授業は、先ず素振り。それも刀での素振りでした。ある日雨が強く降っていたので、今日は屋上での素振りは中止だと思っていた処、田原先生が大声で「専科生何をやってるんだ、早く集合。昔の侍は、雨が降っても槍が降ってもやったんだ！」の一喝で大急ぎで集合しました。私たちは模擬刀でしたが、青木専科生は、入校当時から居合道五段でしたので家宝の真剣を使用していたので、顔色真っ青でした。続いて二人の先生方が元に立ち私達七名。西川専科生は、11月の全国警察大会が終了するまで本部特錬で、

別メニューでした。切り返しと掛り稽古のみの稽古内容でした。午後は座学が2時限あり実技は1時限警視庁第一、第二、第三基本。日本剣道形。小野派一刀流。夢想神伝流居合道。神道夢想流杖道。警杖術。警視流木太刀の形。救急法等で長い一日がやっと終わりますが、雑用も多く休む暇もありません。警視庁武道館内外の掃除、風呂掃除、指導室先生方の剣道着、袴の洗濯等、昔の内弟子生活と一緒にです。やっと終了すると午後8時頃になってしまい、明日の稽古を思うと飲みに行く元気もなく、早寝が一番の楽しみでした。そうこうするうち七月になりますと機動隊への出稽古が予定されていました。第一機動隊から特科車両隊まで十個隊全部行かされました。各機動隊では、特科生を潰そうと手具すねひいて待っています。暑い夏、体力の消耗が激しい時に、切返し、打ち込み、試合。試合は各隊30名以上で特錬を組んでいるので専科生は、四試合位やり、一時間の立切稽古でした。掛かる方は、諸手前突き、表突き、裏突き、スコップ突き、体当たり反面、足払いを繰り返し、疲れたら勝手に蹲踞して止めることができます。元立ちは時間まで止めることができます。体力、気力の限界でやっと終わったと思うと鬼の田原先生が「専科生お互いに組め」の号令で切り返し、掛り稽古、早素振り百本で本当に終了でした。次回は武専の後半です。

新道場完成

一昨年に着工した大学10号館は昨年9月に竣工し部室、武道場、トレーニングルーム、会議室等を完備した8階建て学生会館として共用を開始しました。剣道場は、5階に部室は6階にあり、冷暖房の設備された新しい施設となりました。

剣道部は、剣友会員、学校関係者、普段お世話になっている方々を、お招きし10月8日「道場開き」を開催致しました。

記念祝賀会は、8月に七段に昇段された小池幸夫兄(昭39卒)と中村邦彦兄(昭60卒)のお祝いも併せて開催され、参列者100名の盛会となりました中澤嘉洋主将と土屋一徳剣友会長のご挨拶です

武蔵大学剣道部主将 中澤嘉洋

この度、我が武蔵大学に大学10号館道場が設立されたことは、剣道部員一同喜びに耐えられません。思い起こせば旧学生会館道場では諸先生方を始め、OB、OGの先輩方そして現役剣道部員がともに汗を流し稽古をしてきました。時には激しく、時には楽しくと、思いでは尽きません。

この様々な思いでの詰まった旧道場を巣立ち、新道場にて新たな稽古が始まりました。新道場に於いても、厳しく実のある稽古を酒井師範ご指導の元、励んで行く所存であります。

平成19年度の大会では、挫折もあり困難もあり、そして成果もありました。来年度の大会では全日本出場、四大優勝を目標とし部員一同取り組んで行く所存であります。先生方、先輩方に於かれましては今後とも宜しくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

「新道場開設にあたり」

武蔵大学剣友会長 土屋一徳

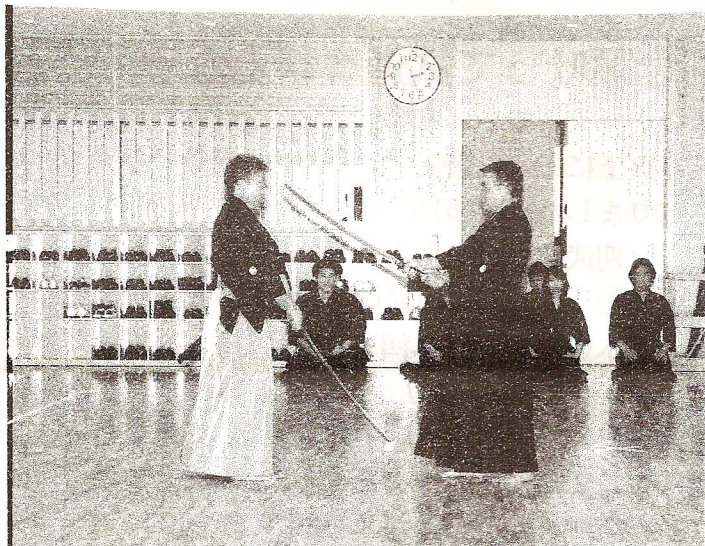
平成19年10月8日大学10号館5階に新道場が、開設されました。

当日は武蔵野稲荷神社宮司によりご遷座祭が、道場と稽古者の安全を祈願し厳かに執り行われました。

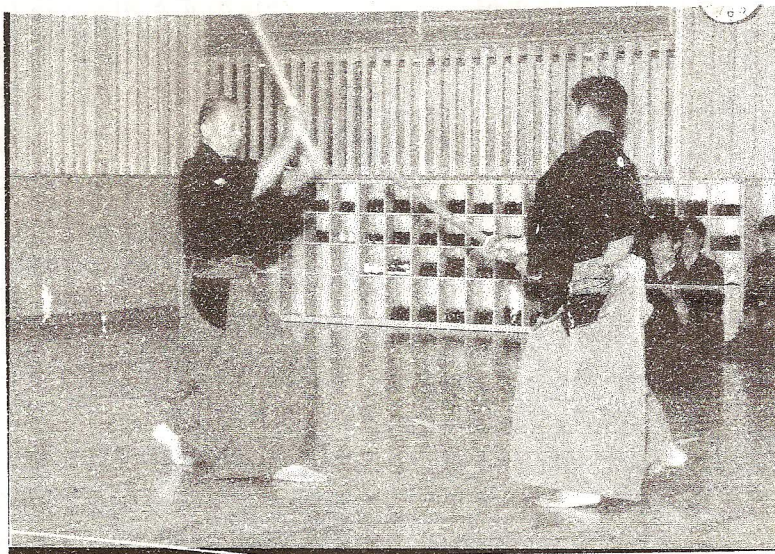
新道場開設にあたり、とりわけ「神棚」につい



部員、会員 整列してご遷座祭



渡辺先輩、関根先輩の日本剣道形



酒井師範、中先生の警視流木太刀の形

て学校当局と想定外の問題がありましたが、OB会、現役が丸となって対処しました。神棚は、総検製で清水啓雄兄(昭51卒)が寄付されました。併せて「竹刀立」「防具棚」も頂戴し、茲に改めて、感謝の意を表します。

神事、関係各位のご挨拶の後は、「日本剣道形」(渡辺欽五兄・昭45卒、関根剛兄・昭50卒)と「警視流木太刀の形」(酒井勝師範、中(あたり)清剛先生・警視庁)が、堂々と披露され、その後気合のこもった、記念稽古会が行われました。

記念祝賀会は、小池幸夫兄(昭39卒)と中村邦彦兄(昭60卒)の七段昇段祝も併せ、8号館8階のホールにて和やかに行われました。これで当剣友会の七段保有者は、10名となりました。

この祝賀会は、剣友会員は元より学校当局幹部の方々、同窓会関係者、旧姓OB、四大学関係者、地元剣道愛好者等多数のご来駕を戴き、盛大に催されました。

処で、これまで「旧錬心館」時代、「学生会館道場」時代と永きに互りご指導を戴きました、故伊能敬、関根日吉両先生始め、旧姓高校の諸先輩、警視庁剣道指導室、神奈川県警本部の先生方のお陰で、剣友剣道大会でも良い成果が除々に上がって来ていることは、周知の通りであります。我々はこの良き財産を後世に継ぎ、剣縁を広げなければ剣道部の発展は無いものと思われまます。

このためには、皆様のご理解とご協力が必要ですが、①剣道部にも毎年数名の推薦入学を認めてくれるよう、学校当局に他の体連OB会と協力して働き掛ける。②学校当局に剣道部、剣友会の活動状況を知ってもらうため、インターネットで活動状況を公開する。③大学の公開講座の様に、月一回定期稽古会を開き、近隣の剣道愛好者と“剣縁”を広げ、近郊の高校からの入部者勧誘の促進になればと願っております。

最後になりましたが、新道場は空調も完備しており、照明も程よく、稽古しやすい環境が整備されております。剣友の皆様には、是非一度ご来場戴き又、稽古される方はお仲間を誘っておいで下さるよう、願っております。



竹内三郎先生の乾杯のご発声



七段昇段の小池幸夫先輩

小池幸夫兄 七段 中村邦彦兄 昇段祝



清水先輩の多大な寄付に感謝状

当日参加者にお配りした記念品「剣縁」の扇子を千円(税、送料こみ)でお配りします。松井幹事長迄ご一報を TEL&FAX 042-576-0683

武蔵大学剣友会 平成18年度
会計報告及び平成19年度予算

平成19年7月14日
武蔵大学剣友会
会計幹事大竹茂雄

項目	H18決算額	H19予算額
前年度繰越額	707,369	867,826
収入の部		
口座振替年会費	950,000	950,000
振込他年会費	60,000	50,000
預金利息	575	0
寄付その他	139,086	350,000
小計	1,149,661	1,350,000
収入の部合計	1,149,661	1,350,000
支出の部		
先生方 中元、歳暮他	25,000	25,000
夏合宿時先生方謝礼	80,000	80,000
福島合宿先生方謝礼	0	50,000
監督年間交通費 H18は2年分	100,000	50,000
新人勧誘費援助金 H18は2年分	89,911	45,000
夏合宿時 道場使用料	20,000	0
現役支払OB連絡費他 負担金	50,000	50,000
OB会扱いOB連絡費他	128,879	120,000
学連剣友会 参加費他	56,000	175,000
明生ビジネス、郵便為替取扱手数料	26,725	27,000
新聞発行費用	68,250	68,000
鹿島神宮、香取神社お祓料及び経費	67,825	68,000
卒業生寄贈及びOB剣友会加入 名札代他	12,870	13,000
丸橋先生(剣道部新任部長)との会食代	42,700	0
昇段 記念品	39,975	40,000
慶弔見舞	24,867	25,000
手拭代	68,500	0
ドイツ遠征 名札代	48,750	0
10号館(新道場)建設寄付金 大学支払分	0	200,000
その他	38,952	185,000
支出の部合計	989,204	1,221,000
次年度繰越額	867,826	996,826
平成19年6月30日現在預金、現金内訳		
みずほ銀行 渋谷中央支店	823,115	
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店	21,690	
渋谷郵便局	23,021	
合計	867,826	

監査報告書

平成18年7月1日～平成19年6月30日の会計年度における当会の収入、支出に
関し調査した結果、正確であることを認めます

監査 手塚 哲男